

災害ボランティア室・被災地支援活動（塩竈班）報告

衆議院議員 大西健介

1. 日 時

2011 年 3 月 26 日土曜日～27 日日曜日

2. 場 所

宮城県塩竈市東玉川 9－1 塩竈市交流センター「エスプ」

○ 塩竈市港町地区

3. 参加者

泉健太衆議院議員、花咲宏基衆議院議員、大西健介衆議院議員、秘書等 41 名

4. 活動報告

（1）交通等の状況

26 日、午後 11 時過ぎ、党本部で支援物資の積み込みを行った後、都内を出発。午前 0 時過ぎに蓮田 SA で最初の休憩。蓮田 SA は、被災地に向かう大阪や名古屋方面からの消防団等の車両で賑わっていた。その後、消灯したが、途中は渋滞もなくスムーズ。ただし、一部道路の状態が悪い所もあり揺れる。午前 5 時半過ぎに国見 SA で休憩。国見 SA では雪が舞っていた。SA の売店は物も豊富。温かい食事もとれる。SS も給油可能。午前 7 時半頃、塩釜市ボランティアセンターに到着。

復路は、27 日午後 4 時半頃、現地を出発し、安達太良 SA、羽生 PA で休憩、途中の渋滞もなく、午後 10 時半前に第一議員会館に到着した。

（2）被害状況

塩竈市は、津波が襲ってくるまでに時間があつたため死亡者は少なかった。古い民家では瓦が落ちてビニールシートで屋根を覆っている建物もあるが、津波による被害の方が大きい。道路は至る所に津波で流された車が放置され、フェンスがなぎ倒されている状況。道端は両脇にゴミや瓦礫、ヘドロが積み上げられている。港の近くでは船が道路に乗り上げている状態。民家を津波が貫通し、家財道具は水や泥で使いものにならない状態。家の中にもヘドロが流れ込み、古い民家は一度潰して建て直すしかないところも多いと思われる。ただ、塩竈市内は、電気、水道は復旧しており、ガスだけが止まったまま。営業していない店も多いが、一部営業しているコンビニもあった。SS は営業していない店舗も多く、営業している SS でも「在庫切れ」の掲示があり、市内の SS は順番待ちの車が長蛇の列を作っていた。

* 被害状況は、ウェブ上のアルバムの写真を参照。
<https://picasaweb.google.com/116597933794207296923/20110327?authkey=Gv1sRgCPLxgKXQvICkZQ&feat=email#>

(3) ボランティアセンターの状況

ボランティアセンターは塩竈市交流センター内のホールに開設されている。隣には公民館があり、避難所にもなっている。現在は 20 名ほどが避難生活を送っているが、避難所の集約で来週からは避難者は約 100 名になる予定。公民館の一部屋が県外ボランティアの休憩室になっており、毛布もあり宿泊も可能。

運営スタッフは、社会福祉協議会職員が中心になって行われている。山口、島根の社会福祉協議会職員も 1 週間サイクルで応援に来ていた。ボランティアセンターは午前 9 時から午後 5 時過ぎまでオープンしている。午前 9 時前には、一般ボランティアが約 20 名集まっていた。多くのボランティアは近郊からの者だったが、単身、東京から来たという学生なども見られた。受付、ボランティア保険の加入等もしっかりしており、ボランティアセンターがうまく機能しているとの印象を受けた。手袋、ショベル、ネコ（一輪車）等の用具も豊富に準備されていた。

(4) 活動内容

団体として受付を行ったため、団体として同じ地域での作業を割り振ってもらうことができた。既に約 1 週間、塩竈市港町地区で活動しているボランティアを紹介され、その方にバスに同乗してもらい、作業地域のコンビニ駐車場まで行き、そこから約 10 分歩いた場所で、3 人の国会議員が班長となり、3 班に分かれ、3 軒の民家での家財道具の運びだし、ヘドロや瓦礫の撤去、泥の洗い流し等の作業を行った。作業地域は瓦礫の山なので、昼食はバスの駐車場に戻り、各自持参したもので済ました。午後 3 時半過ぎには作業が終了したため、現地ボランティアの案内で市内の被害状況をバスから視察した。

(5) 考察、その他気づきの点

- 塩竈市のボランティアセンターはうまく運営されており、市外からの一般ボランティアの受け入れは可能。
- 地震による建物の倒壊より津波による被害が大きく、行政による重機を使った作業だけではなく、民家での作業はボランティアの人手が必要。まだ、復旧が緒についたばかりで、今後もボランティアのニーズは十分にある。高齢者だけの世帯も多く、ボランティアの助けなく復旧作業を行うことは不可能に近い。依頼者からもたいへん感謝された。
- 一つの民家の作業を完了させるのに、15～20 名の人手が必要であり、団体でのボランティア参加もニーズがある。団体の場合は、受け入れ先の負担も考えると宿泊するより、夜中に東京を出発し、翌日日中現地で活動して、帰るという今回と同じパターンがよいと思われる。
- 当日は、晴天で、心配した寒さもそれほどでもなかった。作業していると汗をかくが、休憩中はやはり寒かった。
- 作業は想像以上にたいへん。ヘドロは臭いもきつい。長靴、ゴム手袋、マスクは不可欠。塩竈ボランティアセンターには備品も豊富に用意されていたが、ショベルやネコ（一輪車）は多くあった方が作業は効率的に進めることができる。用具も一部準備していった方がよいかもしれない。

- 衣服は相当に汚れる。各自、覚悟が必要なだけでなく、バスが汚れるのが問題。
- 参加者からは「また、参加したい。」という声が多く、参加者へのアンケートを行った上で、第二弾以降もボランティア派遣を検討すべき。
- 政府や業界団体の説明では、ガソリン不足は解消に向かっているとのことだが、現地の状況は深刻で、とてもそう言える状況になく、対応が急務。

以 上